ボランティアOSAKA

第25号

2001
SUMMER

●発行●
(福)大阪府社会福祉協議会
大阪府ボランティア・市民活動センター

特集 環境保全に取り組む NPO・ボランティア団体

●市町村ボラ連「Vサイン」No.14

特集

美しいガイア（地球）を子どもたちに残したい

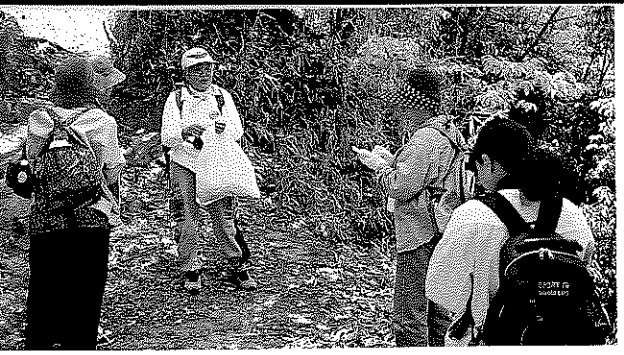
環境保全に取り組むNPO・ボランティア団体

97年に京都で開催されたCOP3（気候変動枠組条約第3回締結国会議）以来、わが国でも活動が活発化してきた環境NGO・NPO。

彼らの活動を見るまでもなく、いまや地球環境問題は人類が避けて通れないテーマとなり、リサイクルを初めとした、市民による環境保全に関する身近な活動も多彩になってきました。

「環境問題の基本は、シンク・グローバリー、アクト・ローカリー（Think Globally, Act Locally）」と言われるように、地球規模で物事を考えながら、それぞれの個人が、その暮らす地域で具体的なアクションを起こすことが大切であるのは言うまでもありません。

そこで今回は、この春に開催された「アースデイおおさか2001」と、大阪で活動する5つの団体を紹介しながら、読者の皆さんと一緒に、環境保全のために私たちには「何ができるか」「何をすべきか」を考えてみたいと思います。



野草についてのレクチャーが始まると、みんな真剣な表情でメモを取ります

アースデイおおさか2001

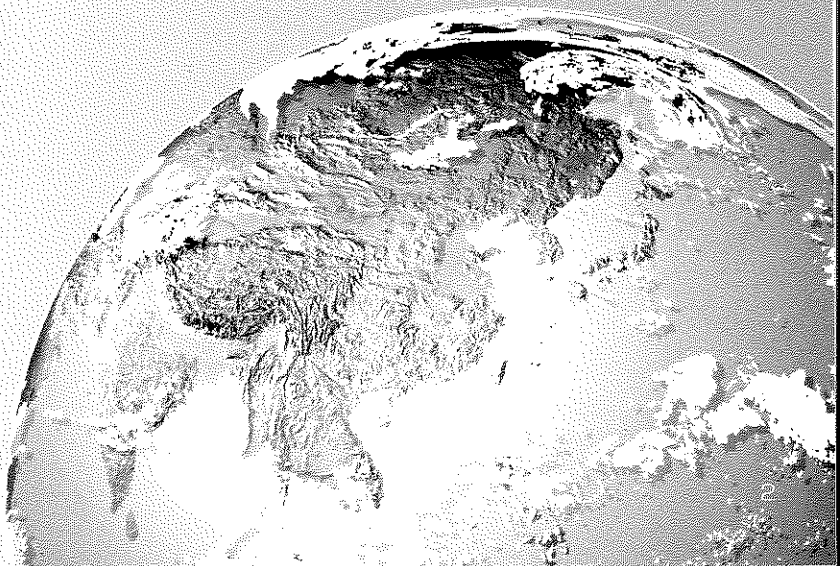
里山でのフィールドワークを通じて自然の良さを再認識

アースデイ（地球の日）とは、あらゆる立場の違いを越えて、「誰もが自由に」「その人なりの方法で」地球環境を守ろうという意思を示す連帯行動の日です。1970年、当時学生であったアメリカのデニス・ヘイズさんたちの呼びかけがきっかけとなったとか。90年には世界に広がり、いまではのべ141カ国、約2億人が参加する一大イベントとなりました。

今春の「アースデイおおさか2001」も、言うまでもなくその一環。大阪で活動する環境NGO・NPOが集まって、3月からプレイベント（勉強会やシンポジウム）がスタート。4月22日（日）にはそれらを集約する二つのメインイベントが開催されました。

その内のひとつ、フィールドワークを楽しむ「おもいきり春の里山を遊ぼう！」は大阪府大東市で開催。これは、里山を散策し、自然を観察しながらそれに根づいた文化や遊びを体験しようというものです。「大阪市環境学習リーダー会」、「野と森の遊び文化協会」、「（社）大阪自然環境保全協会」など、さまざまな環境ボランティア団体で活躍中のメンバーが中心となり、飯盛山の山麓部をフィールドに、野草の観察や調理学習、草花を使った伝承遊びなどを楽しみました。

当日は、スタッフをはじめ、子どもやお年



特集

環境保全に取り組む NPO・ボランティア団体

摘み取った野草は、天ぷらなどに調理しました

自然を感じながら、里山保全について学びます

寄りを含む一般市民も参加。午前9時30分、JR学研都市線の野崎駅に集合した一行は、この日のコースである野崎観音から北条地区の里山を目指して元気良く出発しました。

徒歩10分ほどで野崎観音に到着。ここでは、今回のイベントの世話役を務める関井弘之さんが「里山は身近な自然のシンボル、散策しながら自然のいいところをたくさん知り、環境について一緒に考えていきましょう」と、今回の主旨と一日のスケジュールなどを説明しました。続いて参加者全員が自己紹介。一同、和やかな雰囲気になったところで早速、活動を開始。

世話役の関井弘之さん

「野と森の遊び文化協会」の皆さんが境内に設けた伝承遊びのコーナーで、草花を使った笛やおもちゃ、紙鉄砲、折り紙などを作り、参加者は童心に返って懐かしい遊びの数々を楽しみました。

そしていよいよ里山の散策へ。山道を歩きながら、関井さんたちスタッフが参加者に里山保全の意義とその方法について話します。また、カラスノエンドウ、ヤブニンジン、ハルジオン、セリ、ヨモギなど、道端に生えている草花を順々に観察。野草の特徴や調理の仕方、利用方法について詳しくレクチャーするのは、長年にわたり里山保全運動に携わっている鈴木利さん。知識の豊富な鈴木さんの話に、参加者の中には、草花を一つひとつ手にとって確認したり、味や香りを試しながら、熱心にメモを取る人もいました。

「野草は色々な料理に使えますが、中には毒性の強いものもあり、生えている時期や食べ頃など、それぞれの特徴を知りながら利用することも大切。コンクリートに囲まれた都会の生活では、なかなか出逢うチャンスがないので、こうした体験を通じて、自然の良さを再認識してほしいと思っています」と語ります。

こうして山の新緑を満喫しながら北条地区の小屋に到着。昼食どきということもあり、歩きながら摘み取った野草を天ぷらやおひたしなどにしてみんなで食べ、自然の香りがする独特の味わいに舌鼓を打ちました。

「かつて里山は、人々の農耕生活に関連するいろいろな目的のために利用され、管理されてきました。しかし農業の衰退や燃料革命の進化と共に置き去りにされ、植生が変化し、荒廃が進んでいます。今回の活動のように里山の生態を知ることは、その管理方法を知ることにも繋がり、環境保全に対する人々の意識を啓発することにもつながります」と語る関井さん。

再び野崎観音へ戻り、この日の予定は、無事終了。自然にふれながら過ごしたさわやかな春の一日は、少しずつ暮れていきました。

大阪市内ではシンポジウム

一方、同じ日の午後、大阪市港区の市立港区民センターでは「みんなでとめよう！温暖化 市民がつくるエネルギー」と題するシンポジウムが開催されました。ビデオ上映に続き、4ページで紹介しているCASAの代表理事・岩本智之さんが「地球温暖化の危機と現状」と題し、立命館大学教員・平井孝治さんが「エネルギーと経済政策」と題して講演。引き続き、市民による共同発電事業などに取り組む（株）エイワット代表の柴田正明さんらも参加するパネルディスカッションが行われました。なかでも、関西ローカルエネルギーシステム研究会の副代表も務める柴田さんの、スライドによる活動報告は興味深く、あらためて、エネルギー問題や環境問題に「市民が主体的に関わる」ことの大切さを痛感させられました。

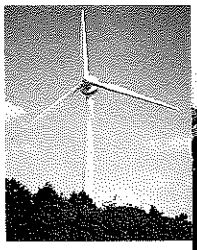
その後は、会場の参加者も加わってのフリートーキング。質問や活発な意見交換がなされ、ときには熱っぽい議論になることも。こうして、参加者が互いに情報と意見を交換し、相互に学び会い、刺激しあう催しは無事終了。「こうした催しで、原子力発電を含めて、国のエネルギー政策、環境政策を見直す機会になれば」とアースデイおおさかスタッフの牛田等さん。また大阪市北区から参加したという男性は「初めての参加でしたが、皆さんの意気込みには大いに触発されました。またフロアに展示された、参加団体の活動を紹介するパネルも解りやすくてよかったですね。今日の参加をきっかけに、自分にできることを考えてみます」と感想を述べていました。来年は、さらに多くの市民の参加で、より一層アースデイを盛り上げたいものです。

講演する、CASA代表理事・岩本智之さん

同じく立命館大学教員・平井孝治さん

会場の参加者も加わってフリートーキング

5月19日（土）にスタートした、9年めとなる「地球環境大学」



「地球環境大学」で行われた風力発電の現地見学会

国連登録NGOとして、国際的な活動を展開

特定非営利活動法人 地球環境と大気汚染を考える全国市民会議（CASA）

5月19日（土）の午後、大阪市中央区の社会福祉指導センターで、ある「連続市民講座」がスタートした。11月まで、月一回のペースで開かれる「地球環境大学」。大阪に事務局を置く環境NGO「地球環境と大気汚染を考える全国市民会議」（略称CASA）が毎年開催しているもので、今年で9年めになる。初回となるこの日は、立命館大学の和田武教授による「21世紀のエネルギー問題」と題する講演が行われ、参加した約30名の市民は熱心に耳を傾けた。

CASAの設立は古く、1988年10月に遡る。当時、以下の3つの市民活動に取り組んでいたグループが集まり、CASAとしての活動は始まった。一つは、オゾン層の破壊や温暖化問題など、地球規模の環境問題に取り組んでいた消費者運動の流れ。二つめは、西淀川公害裁判を通じて、大気汚染問題と公害被害者の救済活動に取り組んでいたグループ。そして三つめは、環境保全と公害根絶の研究調査などに取り組む研究者・専門家たち。こうした3つの運動の流れが合流しスタートしているだけに、その活動範囲はきわめて幅広く、かつアカデミックでもある。

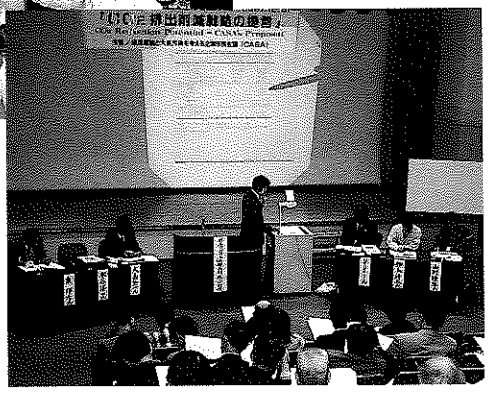
「私たちは活動の目的として、①地球環境問題、大気汚染問題についての研究、交流、提言、②海外NGOとの交流・連帯、③地域の大気汚染被害者運動の支援…の3つを挙げていますが、活動実績が認められて国連のCSD（持続可能な発展に関する委員会）の登録NGOになり、94年にはロスター資格（登録NGOのカテゴリーの一つ）を得て、経済社会理事会（ECOSOC）の招集する会議に参加できるようにもなりました」と事務局の尾形祥子さんと福村由起さん。

国連の登録NGOについては、数年前に京都で開催された「COP3」における各国NGOの精力的な活躍ぶりに私たちは驚かされたものだが、そうした意味でもCASAは、日本における、国際的な活動を展開する数少ないNGOの一つと言っていい。世界のNGOのネットワークである「気候行動ネットワーク」（CAN）にも加盟し、98年には、こうした国際活動が評価されて、豊かな環境づくり府民会議（会長・大阪府知事）が創設した「おおさか環境賞」の大賞も受賞した。

現在、会員は約60の団体と約500人の市民。単に批判や請願をおこなう市民運動ではなく、調査や研究を通じて、社会に積極的にオールタナティブ（代案）を提案する「シンクタンク的市民団体」と言ってもいいが、こうした市民組織が果たす役割が、今後ますます大きくなっていくのは間違いなさそうだ。

■連絡先 ☎06（6203）2050

事務局の尾形祥子さん（左）と福村由起さん


1997年12月に京都で開催された第3回締結国会議（COP3）と、それに向けて開かれたCASAのシンポジウム（右）

「門真みどり会」発足時のメンバー（右）。中でも井上豊一さんは「花博士」の異名をとるほどの花づくりの名人

有用微生物群（EM菌）を使って、地域で花づくり

門真みどり会

毎日、台所から出る生ごみと向かい合っている主婦たちが、有用微生物群の力を借りて生ごみを肥料にし、地域で花壇づくりなどに取り組んでいるのが「門真みどり会」の皆さん。門真市千石東町に住む網谷朝代さんたち7人が平成6年から始めた活動で、いまでは参加者も増え、その取り組みは市内各地に広がりつつある。

「台所の生ごみだけでなく、清掃活動で集めた落ち葉や剪定ごみ、雑草なども堆肥化し、花壇に戻して花づくりに役立てています。まだまささやかな活動ですが、微生物の浄化力を借りて自然の生態系を回復していく一助になれば」と網谷さん。

ところで、この有用微生物群は一般にEM菌と呼ばれ、自然界に存在する微生物の中から、作物の栽培に有効である乳酸菌、酵母菌、光合成細菌など80種以上を選び出して複合させたもの。その組み合わせを発見したのは琉球大学農学部教授の比嘉照夫さんで、10数年前から注目を集め、いまでは全国の自治体や学校、多くの市民（団体）などがこれを用いた有機農業や生ごみの減量化、環境保全や美化活動・緑化活動に取り組んでいる。また化学肥料を使わない作物づくりだけでなく、汚泥処理などにも使用され、大阪や岐阜では、濠の水にまいて水質浄化にも利用されているとか。

「いずれにしても、自然のサイクルに従う方法。生ごみや落ち葉、剪定ごみや雑草残滓などを腐葉土として花壇に戻すわけですが、腐葉土は汚染された大気を浄化する作用が大きいとも言われています。また微生物群は下水浄化、ひいては河川の浄化にも役立ちます。私たちの緑化活動で、ゼロエミッションに少しでも近付ければ…」とも網谷さん。

そんな「門真みどり会」のモットーは、「できる人が、できる時に、できることを」。一斉に集まって掃除をしたり花を植えるというより、メンバーが「できる時に、できることを」それぞれの自宅近辺で取り組んでいくのがベースだとか。「もちろん、一斉に集まって活動するときもありますが、地域の誰もが気軽に参加できるような活動を心掛けています」と網谷さんたちは語る。地域の、道行く人を楽しませる花壇づくりや緑化活動。自然に優しい、そして地域に住む人たちにやさしい素敵な活動だ。

■連絡先 ☎072（882）5748（網谷方）

街路に作った花壇に咲く、きれいな花々

微生物群を使っての生ごみを発酵させる「ボカシづくり」

都市と自然の共存を求めて

社団法人
大阪自然環境保全協会

「都市と自然の共存」をメインテーマに、幅広い環境保全活動を行っている（社）大阪自然環境保全協会。大阪南港に野鳥園を作る運動を推進した市民が中心となり、身近な自然を守り育てることを目的に1976年に設立された。同協会の運営は、事務局職員以外すべてボランティアによるもの。現在、1,800名の会員が、多岐にわたる活動に携わっている。

その活動は、自然環境に関する「調査・分析」、自然保護や知識についての「普及・啓発」、行政などに向け、保全と復元を求める「主張・提言」の3つの分野を軸に展開している。

「調査・分析」の分野では、市民も参加して動植物を調べる「里山一斉調査」や、タンポポの種類や分布によりその土地の開発状況などを調べる「タンポポ調査」、ニホンメダカの生息状況などを調べる「メダカ調査」などを実施。さらに自治体の依頼により、環境計画の基礎情報となる調査も請け負っている。

タンポポ調査

また「普及・啓発」活動においては、「ナチュラリスト養成講座」や「自然観察インストラクター養成講座」、「シニア自然大学」など、さまざまな講座を開講し、自然観察に関するアドバイザーや動植物についての講師、ボランティアなどを養成している。これらの講座の修了者は、自然観察会や各種のイベントなども企画・運営しており、その数は、年間100回以上にのぼる。

自然工作などのイベントも企画・運営

「当協会は、長年、都市の中のささやかな自然から、広域にわたる自然環境の保全・保護、さらにその復元などを『主張・提言』してきました。なかでも都市近郊の里山の荒廃には早くから着目し、全国に先駆けて保全運動を提唱してきました」と語るのは、事務局長の岡秀郎さん。

年3回行っている「里山管理指導者養成講座」でボランティアリーダーを養成し、地域ごとにリーダーを派遣。活動を展開してきた。これが枝分かれして自発的な活動を行う連携グループがどんどん増え、今では10ヶ所以上のフィールドでさまざまなグループが活躍中だ。そのほか、生態系の復元を目的とし、ビオトープづくりにも積極的に取り組み、学校や公共施設に出向いて、トンボ池やメダカ池づくりのアドバイスも行っている。

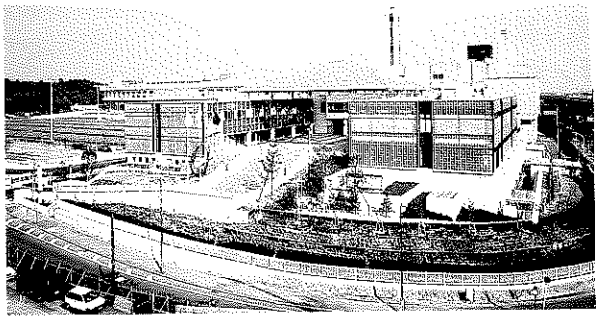
このように、同協会では、息の長い活動が功を奏して、年々会員数が増加している。また岡さんは、「自然が好きで関心がある人なら誰でも気軽に入会できます。失われていく自然を守り、育て、自然とともに人間の本来あるべき姿を実現していくため、みんなと一緒にステップを踏み出しましょう」とも語ってくださった。

■連絡先 ☎06（6374）3376

ビオトープづくり

リサイクルの実践や市民研究所の活動を通じて、ゴミ問題を考える

財団法人 千里リサイクルプラザ



研究所主催で開催された「くるくるフォーラム2000」

92年の設立以来、さまざまな事業を通じてゴミと地球環境に関する問題に取り組んでいる財団法人千里リサイクルプラザ。「くるくるプラザ」の愛称で親しまれている資源リサイクルセンターを拠点に、常設の「市民工房」や「あげますもらいますコーナー」、各種イベントやフリーマーケット、講習会・講座など多彩な活動を展開している。市民工房では指導員が自転車や家具、衣類など身近な物品の修理やリフォームを指導。壊れた自転車や古くなった家具、サイズの合わなくなった服などを市民が持ち込み、自分で作業をするというスタイルで、「やり方を教えてもらえるので、自分でできるようになるのが魅力」と好評である。「自分で修理したり作り直したりするという行為を通じて、市民一人ひとりが大量生産・大量消費型の生活を見つめ直してくれれば」と同プラザ参事の西口広雄さんは話す。

中でも特徴的な活動として注目されているのが、ボランティアの市民研究員がゴミと環境の問題についての調査研究を行う「市民研究所」の取り組みである。約70名の市民研究員が生活者の視点から調査研究に取り組み、8つの研究会・グループに分かれて大学教員の主担研究員と共に活動。内容は「環境にいいお店を探す会」といった身近なテーマを扱うものから、「ごみ減量政策提言プロジェクト」のような大きな問題に取り組むチームまでバラエティーに富んでおり、その成果は年一回発行される『研究報告書』にまとめられる。この数年は特に実地調査や啓発活動に力を入れており、スーパーの店頭で成分表示や容器包装について調査やアンケートをしたり、店の一角を借りてゴミと買い物についてのパネル展示をしたりと、一般市民を巻き込んでの積極的な活動が増えてきた。

研究所メンバーによる「手づくりおもちゃ」の講習会

「近年、ゴミや環境をめぐる社会情勢は目まぐるしく変わっています。設置10年という節目の年も目前ですし、この機会に"行動する研究所"を目指して組織や活動の見直しを進めようと考えているんです」と西口さん。地域住民や市民ボランティアとの連携を深め、より多くの人を巻き込んだ活動に広げていきたいと意欲的だ。

「それと並行してプラザ事業へのボランティア導入を進めていくことを検討しているところです。現在は情報誌『くるくるプラザ』の編集制作をボランティアの方にお願いしていますが、そういう動きをどんどん増やしていきたい。ここでやっているいろんな取り組みをもっと多くの市民に知ってもらい、どんどん参加してもらうためには、人的ネットワークの拡大が不可欠。そのためにもボランティアさんとの連携が今後ますます大切になってくるでしょう」と西口さん。

年々深刻化するゴミ問題に対する同プラザの取り組みは、より地域に密着した活動へと着実に変わりつつある。

■連絡先 ☎06（6877）5300

ボランティア編集委員が作る情報誌「くるくるプラザ」

中国・黄土高原の緑化に挑む

特定非営利活動法人
緑の地球ネットワーク（GEN）

中国・山西省大同市は、北京から西に約300kmの所にある石炭の街だが、周囲は農村地帯。ここから西南に向かって広がっているのが、黄土高原だ。面積は日本の約1.5～1.6倍。広大なこの地域は「10年のうち9年は干ばつ」「春の雨は油より貴重だ」と言われるほど年間降水量が少なく、その70%が夏の3ヶ月間に集中している。そのため砂漠化が進み、農作物が育たず、環境破壊と貧困の悪循環を繰り返す深刻な事態に陥っている。

この黄土高原で、植樹や育苗などの緑化協力活動を行っているのが「緑の地球ネットワーク（以下GEN：Green Earth Network）」。1992年より活動を始め、現在、会員数は640名。北海道から九州まで、全国に散らばっている。

GENの活動は、大同市青年連合会の協力をもとに、山地や丘陵地にマツの植樹を行う地球環境林の整備や、その拠点として大同市の南郊外に苗畑、見本園、温室、実験・研修施設、宿舎を備えた「地球環境林センター」も設置。また、貧しい農村の子どもたちも学校に通えるようにとの願いから、45以上の村に「小学校附属果樹園」を建設。アンズやリンゴなどの果樹を栽培し、収益の一部を村の教育に役立ている。そのほか、大同市南部の霊丘県で落葉広葉樹の自然林を発見したことから、この地域の植物生態を観察したり、日本をはじめとする他地域からも植物を持ち込み、「霊丘自然植物園」の建設などにも取り組んでいる。今年の春からは北部に土地の使用権を借り、会員が独自で管理できる「カササギの森」も建設した。

しかし、GENの活動はこれだけにとどまらない。日本国内では寄付金を募集するほか、毎年、春と秋の年2回、「ワーキングツアー」を主催。これは、参加者が現地に行き、農村の人たちと一緒に植樹や井戸掘りを経験するというもの。ホームステイも体験できる。「環境問題について関心のある人は増えているようですが、日本という豊かな国の中では、まだまだ皆、危機感が足りないように感じます。実状を理解するには、まず体験することが大切。それに大同の農村は中国人さえ知らない隔絶された農村地帯。参加者の皆さんは、ここでの体験を通じて、それぞれに感得するものがあるようです」と語る事務局長の高見邦雄さん。

現地の人たちと一緒に植樹を行う

このほか、地球温暖化や身近な自然環境について考える学習会や観察会、講演会やツアー参加者の交流会など、年間を通じてさまざまなイベントも開催。「私たちの活動は、それこそわずか15cmほどの苗木を一本いっぽん植えつけることから始まる地道なもの。自然は厳しく、ある年などは、6万本もの果樹がひと冬で全滅したこともありました。このように、失敗の結果はすぐに出ますが、ひとまず成功と思えるまでには何十年もかかる。果樹園などは、ここ数年でようやく半分以上が収穫できるようになり、今後、収益が上がっていくだろうと見込めるようになりました。そしてこうした喜びが、次への挑戦へとつながります。その繰り返しの10年間だったように思いますが、ぜひ、次世代にも伝えていきたい」とも高見さん。

厳しい気候にさらされた黄土高原の緑化に挑み、地球環境のため、国境を越えた協力を目指すGENの活動は、今後も長いサイクルで、しかも着実に成果をあげていくだろう。

■連絡先 ☎06（6583）1719

Hello! ボランティアセンター

高槻市ボランティアセンター

高槻市紺屋町3-1-303
グリーンプラザたかつき3号館3階
TEL 0726 (83) 2200
FAX 0726 (83) 2209

特徴は市民主導とロケーションの良さ

昭和60年にスタートした高槻市ボランティアセンター。翌年には現在の駅前ビル（グリーンプラザたかつき３号館）に移転し、以来、市民の情報センターとしての活動を展開してきました。これまで、所長は高槻市社会福祉協議会の会長が兼務してきましたが、より民間色を発揮すべく、昨年の４月からは市民の代表として矢形律子さん（前・大阪府市町村ボランティア連絡会の会長）が抜擢され、所長の重責を担っています。

このことに象徴されるように、社協が設置したセンターを市民主導で運営しているのがここの特徴。「私たちは脇役に徹し、運営は基本的に矢形さんら市民の皆さんに担っていただいています。そのことで開かれたイメージが定着し、一人でも多くの市民が訪れてくれれば…」と高槻市社協職員でボランティアセンターを担当する松永さんと守山さん。

取材の日は、月に一度のコーディネーター・ミーティングの日。矢形所長とコーディネーターの皆さん、そこに松永さんと守山さんが加わっての会議が開かれていました。個別の案件にどう対応していくべきか…などを巡って真剣な意見が交わされます。

そしていま一つの特徴は、駅前という抜群のロケーションの良さ。利便性が効を奏してか、毎日のように「何かボランティアをしたい」という市民が訪れ、登録ボランティアの数は86の団体に加えて、個人が常時200人を越えているとか。そんな人たちをニーズにつなぐコーディネート事業の他、親睦と意見交換を目的としたボランティアサロンの開催や講座の開催など、活動はきわめて盛り沢山。文字通り、地域の活動拠点としての機能を発揮しています。

電話相談に対応するコーディネーターの木村光子さん

堺市中央ボランティアビューロー
（ボランティア情報センター）

堺市南瓦町2-1　堺市総合福祉会館内
TEL 072 (232) 5420 (代)
直通TEL・FAX 072 (226) 2987

ふたつの拠点で様々な支援活動を展開

堺市社会福祉協議会では、「中央ボランティアビューロー（ボランティア情報センター）」と「さかい南ボランティアビューロー」のふたつの拠点から、市民のボランティア活動をサポートしています。両施設では、ボランティアに関するさまざまな情報の発信や提供、相談の受付けなどを行っています。

「中央ボランティアビューロー」は、昨年11月、堺市総合福祉会館１階ロビーに移設。通りに面した大きな窓からは温かな陽射しが差し込み、オープンで明るい雰囲気です。ここには、活動をきっかけに親交を深めた人たちが次々と訪れ、世間話をすることもたびたび。相談窓口というより、交流サロンの役割も果たしているようです。情報コーナーも充実しており、ボランティアに関する書籍やビデオの閲覧・貸出も可能。同センターが発信する「ふれあいボランティアねっと」というホームページにアクセスして最新情報を検索することもでき、好評です。また、泉北高速「泉ヶ丘」駅前の「さかい南ボランティアビューロー（072-295-8250〈直通TEL・FAX〉）」は、ショッピング・ゾーンの一角にあり、ロケーションも抜群。誰でも気軽に立ち寄ることができます。

そして、こうした支援活動を支えているのがボランティアによる約25名の相談員。活動を始めようと思っている人、あるいは現在活動中の人と、ボランティアを必要としている人との橋渡し役として、積極的にコーディネイト業務に携わっています。代表の津田恵璃子さんも、ボランティアのひとり。「市民が中心となって運営にあたっているので、堅苦しいイメージもなく、皆さん楽しく利用してくださっているようです。ボランティア活動を通じてイキイキと元気になられる様子を見ていると、私たちも本当に嬉しい」とにこやかに話してくださいました。

泉州

岸和田市ボランティア連絡会結成 !!

平成13年6月23日（土）に、岸和田市ボランティア連絡会結成総会並びに記念式典を開催する運びとなりました。結成にいたるまで約1年間、準備委員会を発足し、連絡会の意義や必要性について学習するとともに、他市へ見学に伺ったり、ブロック別交流会に参加するなど経験豊かな先輩方から、アドバイスやお知恵を拝借しながら進めてまいりました。

これまでは、つまずいたり、頭をうちながら苦労して準備をしてきた連絡会ですが、本音で議論を重ねたことで、お互いを知り、ボランティア仲間としてより絆を深めることができたのではないかと感じています。今後は、この連絡会を活気のあるものとし、無理せずできることからはじめていこうという精神で、一歩一歩踏み出していきたいと考えておりますので、より一層の変わらぬご支援ご協力をお願いいたします。

Vサークル自己紹介

●花水木会

「花水木会」は、発足以来13年目を迎えます。最初は少人数での出発でしたが、現在では30数名が会員となり、常時20数名の会員がボランティアに参加できるようになりました。

わが会は老人ホームを中心に訪問させて頂いています。発足当時はいろいろとまどいもあり、どうすればお年寄りの方々に喜んでもらえるのかと会員一同で悩んだものですが、それも今となっては懐しい思い出です。

回を重ねるにつれて芸も上達し、現在では日本舞踊も取り入れていっそうの充実を図り、これまでに70数回の訪問をさせていただいています。行く先々で、公演終了後、「必ずまた来てください」と言ってくださるお年寄りと、握手と涙の別れをしてきましたが、その感動を思うと、次の訪問に向けての力が湧いてきます。

現在の活動は、岸和田、貝塚、和泉の3市の老人ホームを月2回ほど訪問し、訪問先の方々が歌う小唄に合わせて踊りを披露。暗いニュースの多い今日、少しでも心和ませるボランティア活動をと、会員一同邁進していきたいと思います。

Vサークル自己紹介

●ボランティアあすなろ会

私達のグループ「ボランティアあすなろ会」は、結成して7年目を迎えます。現在の会員は40名で、その内訳は女性会員27名・男性会員13名の構成で、平均年令は60歳になります。カラオケ、新舞踊、腹話術、手品等で福祉施設への慰労訪問を行い、施設のお年寄りたちと一緒になって、笑顔のひとときをすごせるように、会員一同が一生懸命に頑張っています。

〈平成12年の主な活動〉

◎老人ホーム等の福祉施設訪問　6回
◎会員の親睦をはかるバーベキュー会
◎岸和田福祉まつり　芸能の部門に参加
◎チャリティディナーショーを開催（収益金と参加者の善意の寄付で、車椅子5台を岸和田市に寄贈）

お年寄りの笑顔が何よりの励み

北摂

南国の情熱的な踊りで、お年寄りと心の交流

●ハイビスカスフラチーム

茨木市を拠点とする「ハイビスカスフラチーム」は、平成12年9月に、スポーツクラブのダンス教室で知り合った仲間5人で活動を開始したボランティアサークル。現在は老人ホームやデイサービスセンターなどを中心に活動しています。「利用者の方が私たちのフランダンスを観て涙を流して喜んでくださったことや、車椅子に乗っておられる方が一緒になって踊ろうとしてくださったことが印象に残っています。できる限り細く長く続けていきたいですね」と、リーダーの矢島恒子さん。華やかなフラダンスを通じて、心と心の温かい交流の輪が広がっているようです。

華やかなステージ衣装でフラダンスを披露

河南

お年寄りに音楽の贈り物

●音楽宅急便「さら」

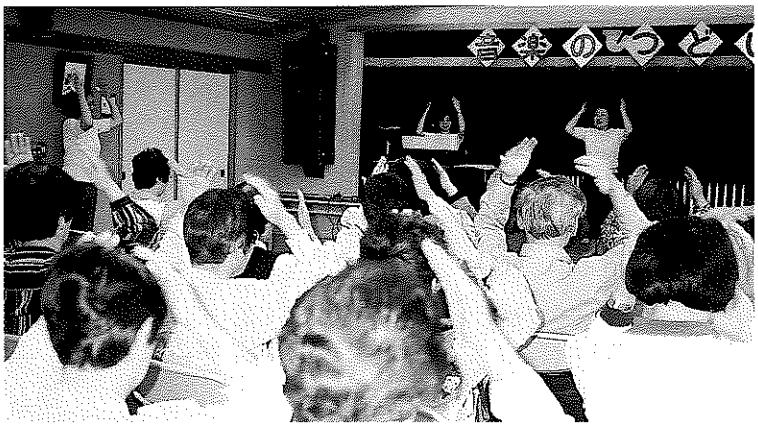
東大阪市の高井田老人センターで、4月23日、「音楽のつどい」があると聞いて訪れました。

相愛大学音楽学部の同窓生が作った音楽宅急便「さら」が、同センターで開く4回目の演奏会です。今回の出演は年齢まちまちの女性11人、ピアノ伴奏の二重唱・三重唱やコーラスのほか、フルートやマリンバ、ハンドベルの演奏もあって華やかです。曲目も春にちなんだものが選ばれていました。

演奏が始まる前に、お年寄りの方々が「はよ行こ、楽しみにしとったんや」と誘いあわせる様子や、いろんな曲に合わせて歌っている姿も印象的でした。演奏の中ほどにはリズム体操があって、お年寄りの緊張もほぐれます。その指導をしておられたリーダーの小西さんの明るい笑顔も素敵で、1時間あまりの演奏会はあっという間に終わりました。

「楽器の運搬に苦労されることがある」とは社協事務局のお話ですが、音楽を学んだ方々が楽器を持ち込んでの生演奏、これからも皆さんに楽しいひとときを贈り続けることでしょう。

（河南ブロック広報担当　宮田信直）



客席のお年寄りと一緒にリズム体操

ハーモニカ人生とボランティア

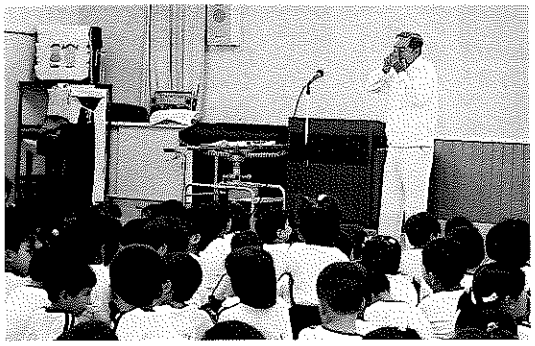
●藤井寺市　田中　勉さん（69歳）

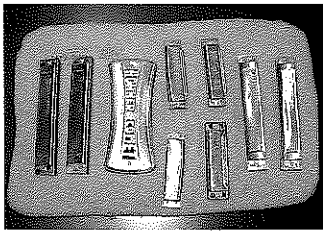
「ハーモニカは私の人生そのもの」と、ハーモニカの話を始めると止まらない…そんなボランティアさんが藤井寺市におられます。

「週に一度病院を訪問し、演奏をお願いします」そんな呼びかけで始まったボランティア活動。最初はただ演奏をするだけでいいと思っていた田中さんでしたが、ある時「聞いてもらうだけでなく、一緒に歌って楽しんでもらおう」と、病院の職員と打ち合わせを繰り返し、「発声する・体を動かす」、リハビリならぬ「遊戯のリハビリ（遊ビリ）」に一役買うようになりました。

その甲斐あってか、退院されたり、転院された患者さんから田中さんの評判を聞き、今では老人会、福祉施設をはじめ、図書館、小学校、保育所、幼稚園などから依頼がボランティアセンターに次々と入るようになりました。特に、小学校や幼稚園などの依頼が増え始めると、子どもたちに受ける流行の歌を選曲するため子ども番組を見て覚えるようになり、持ち曲は数えられるだけでも200曲以上となりました。

そんな田中さんとハーモニカの付き合いはかれこれ50数年となります。17歳のとき母親からプレゼントされたのをきっかけに、ほとんど独学で覚えたとのこと。大病を患ったときには、「もう駄目かぁ。ハーモニカとはお別れだなぁ」と思ったそうですが、「ハーモニカは、心臓、肺にはいいですよ。これからもがんばってくださいね」と医者から言われ、ますますハーモニカに感謝し続けるようになったとのことです。




田中さん愛用のハーモニカ

ハーモニカをこよなく愛する田中さんは、大小それぞれ10数本のハーモニカを所持していますが、これらのほとんどは20数年愛用しており、故障しても修理は大抵自分でされるということですから、頭が下がります。

ハーモニカに限らず、ひとつのことを続けることは容易なことではありませんが、いきいきした笑顔を拝見し、お話を拝聴すると、「何かをせねば…」と、考えさせられます。

（藤井寺市社協　前原）

河北

Vサークル自己紹介

●シルバーアドバイザー北河内の会（SA北河内）

大阪府シルバーアドバイザー養成講座の修了生27名が、平成10年3月16日に会を設立。「自主・自発・自由」を活動のモットーに、北河内7市（守口、門真、寝屋川、枚方、交野、四條畷、大東）から、豊富な知識と経験、そして技能を携えて集まり、以来、意欲的な活動を展開しています。平均年齢68歳のシニア集団ですが、歌体操やギター・尺八の演奏、マジック、落語、詩吟、舞踊、歌謡浪曲、歌謡曲、コーラス、どじょうすくいなど、ユニークでバラエティー豊富なボランティアプログラムが特徴です。

ロゴの入ったおそろいのエプロンがユニホーム

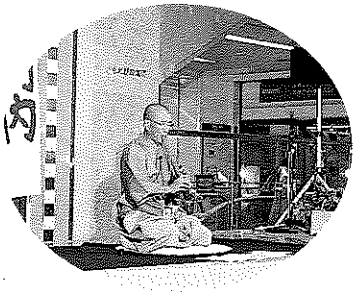
北河内7市の特別養護老人ホームや各種老人保健施設、独居老人施設、病院、学校への訪問をはじめ、子供会、PTA主催の催し、公共機関主催のイベントなどにも参加。最近では国際交流分野でも新たな活動を展開し、日本文化を紹介し、異文化交流による相互理解を深めるなど、大いに成果をあげています。

このように、「福祉ボランティア活動」「伝承玩具作りによる世代間交流活動」「外国人とのふれあいによる国際交流活動」の三本柱をコンセプトとして、意欲的に活動しています。

最近ますます活動が活発化し、平均活動頻度は4日に一度、年間では90回を超えています。また、同じ日に2か所で活動があるため、メンバーが分散して対応することもしばしばです。

こういった活動に必要な資材（旗、幕、のぼり、歌詞カードなど）や小道具類、玩具作りの材料や衣装、オーディオ機器などは、全て自作または自主調達。企画運営や演出、司会・進行も、もちろんメンバーたちで考え、実行しています。

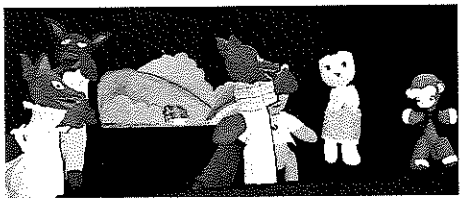
21世紀に突入し、福祉・教育・国際協調の重要性がますます叫ばれるなか、私たちSA北河内の活動は非常に意義深いものであるとの認識を深め、今後も一層の広がりを目指して、明るく楽しくボランティア活動に取り組んでいきたいと考えています。

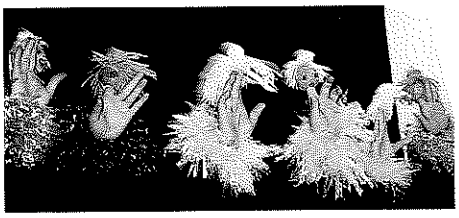

日本の伝統音楽「尺八」の演奏は外国人にも好評

Vサークル自己紹介

●人形劇サークルかざぐるま

私たちのサークルは、21年前に守口おやこ劇場のサークルの一つとしてスタートしました。おやこ劇場では、会費を積み立て年に4回くらいプロの劇団の人形劇やお芝居を観ますが、「地域の子どもたちにもっとたくさん人形劇を観せてあげたい」というだいそれた（?）思いと、「観るだけでなく自分たちでも演じてみたい」という思いとでスタートしました。発足当時は右も左もわからず、人形劇の盛んな枚方市の人形劇講座を無理やり受けさせていただいたり、プロの劇団の方に指導に来ていただいたりしました。メンバーが入れ替わりながらも、常に5～6人が活動。毎週金曜日に公民館を借りて、制作と練習をしています。公演は市内の幼稚園や保育所、小学校、公民館などで行います。このサークルがここまで続くことができたのは、「地域の子供たちに観せてあげたい」という最初の目標もさることながら、演じている自分達自身も楽しかったからだと思います。公民館の方をはじめお世話になっているたくさんの方々には、日々心から感謝しております。





第一回「大阪わぃわぃミーティング」開催

太田知事と、ボランティア・ＮＰＯが対話集会

昨年は「こんにちは太田です！」というタイトルで開催された、太田房江大阪府知事と府民との対話集会。今年からは「大阪わいわいミーティング」という名称となり、６月７日、マイドーム大阪において「ボランティア・ＮＰＯとのよりよいパートナーシップをめざして」をテーマに、大阪で活動する39団体・62名が参加して開催されました。

この日の進行役を務めた、関西国際交流団体協議会の有田典代さん

「わいわいミーティング」としては第一回となるこの日、まず参加者を代表して３団体から活動報告と意見表明があり、大阪府市町村ボランティア連絡会の大杉貞子会長が「地域に根ざしたボランティア活動の推進」について報告。その中で、地域における子育てに果たすボランティアの役割を強調し、活動への行政のさらなる支援を訴えました。続いて箕面市非営利公益活動促進委員会委員の東一洋さんが、「箕面市の非営利活動促進委員会の動きについて」と題して報告。行政とＮＰＯとの“現実的なパートナーシップ”を訴えました。そして最後に、大阪ボランティア協会ＮＰＯ推進センターの水谷綾さんが、「大阪ＮＰＯ活性化推進事業を通してのＮＰＯと行政の協働」と題し、大阪府としても初めてとなるこの事業の、今後の課題、また揺籃期にあるＮＰＯ側の今後の課題などにも触れながら、インターミディアリー（中間組織）として事業に関わった立場から総括報告を行いました。

大阪府市町村ボランティア連絡会会長・大杉貞子さん

続いてマイクはフロアに解放され、参加者はさまざまな活動に取り組む立場から積極的に発言し、太田知事と活発に意見交換。「学校の空き教室を地域のボランティア活動にもっと活用しては…」「全庁的な支援体制を整えてほしい」などの意見や要望が出され、これらに対して太田知事は、「府民センターの活用なども考えたい」また「こうした本音で語り合える場を今後も持ちたい」などと前向きに発言。終始なごやかなムードで対話集会は終了しました。

箕面市非営利公益活動促進委員会委員・東一洋さん

その後は、府ＮＰＯ担当部局の方々と参加者との懇談会。ここでも本音の対話が繰り広げられ、懇談は予定の時間をかなりオーバーして終了。行政とＮＰＯが交流を深め、あらためてパートナーシップの重要性、そのための互いの課題などを語り合い、認識し合った、実りある一日となりました。

大阪ボランティア協会ＮＰＯ推進センター・水谷綾さん

会場からの意見表明と、それに耳を傾ける太田知事

Vクリッピングボード

ボランティアをやってみたい！
そんなあなたに耳寄りな情報満載

〈ご利用にあたって〉
ボランティア活動へ参加を希望される方は、事前に各団体にお問い合せの上、条件等を話し合ってから、参加してください。
●このコーナーに記載の情報はホームページでもご覧になれます。
http://www.ovn.gr.jp/

1 室内で障害者とコミュニケーションを図りましょう

活動内容：身体障害者の作業補助（陶器、アートフラワー、または内職作業の介助）、風呂、居室の清掃
日　　時：毎週月曜日～金曜日　9：30～15：30
週1～4日、部分参加も可能
場　　所：賀光寮（藤井寺市藤井寺4-11-18）
沿　　線：近鉄南大阪　藤井寺駅　徒歩13分
募集対象：どなたでも
問合せ先：TEL 0729-55-0653　FAX 0729-55-0905
（福）賀光会　賀光寮（担当／野崎　浩司）

2 バザーに出す物品を募集します

活動内容：バザーに出すリサイクル等の物品を募集しています。なんでも結構ですが、大きいタンス等は取りに行ったりできませんので、服、食器、本等の小さな物品でお願いします。送ってください！
日　　時：月曜日～土曜日
場　　所：東大阪市岩田町6-1-3
問合せ先：TEL・FAX　0729-65-3216
東大阪市とらいあんぐる（担当／岩切　友三郎）

3 ガラス作品の製作、展示会、フリーマーケットの参加者募集

活動内容：交流・話し相手・遊び相手、催事や講座の企画・運営、サンドブラストガラス工芸で手作り作品の製作の補助
日　　時：長期の活動、水曜日　18：30～21：00、土曜日 10：00～16：00、第3日曜日　10:00～16:00
場　　所：サンドブラストガラス工房　クィンクィン
（東大阪市寺前町1-10-16　愛和建設2階）
沿　　線：近鉄奈良線布施駅　徒歩10分
費　　用：交通費自己負担。作品製作を一緒にされた場合は自己負担
問合せ先：TEL・FAX　06-6781-3777
E-mail：quinquin@hct.zaq.ne.jp
サンドブラストガラス工房　クィンクィン
（担当／吉村　智子）

4 水泳教室で知的障害児の付き添いをお手伝いしてください

活動内容：知的障害児との交流、話し相手、遊び相手
日時・場所・沿線：第1・3水曜日 14:30 ～ 17:00「三ノ切プール」（豊中市／北大阪急行「桃山台」駅から徒歩）、第2水曜 15:00 ～ 17:00「片山市民プール」（吹田市／阪急千里線「豊津」駅から徒歩）
募集対象：高校生、専門学校・短期大学・大学生、成人(概ね10～50歳代)、男女問わず若干名
費　　用：交通費自己負担。水に入ってくださる方の料金はグループ負担
主　　催：ボランティアグループ　スマイル
問合せ先：TEL 06-6357-5741　FAX 06-6358-2892
(福) 大阪ボランティア協会（担当／南）
＊定員になり次第締切

5 高齢者の方へのお世話をお願いします

活動内容：生活介助、外出介助、交流、話し相手、朗読、その他、高齢者に対する内容のもの
日　　時：月曜日～日曜・祝日　午前のみ・午後のみ1時間程度の活動も可（相談に応じます）
場　　所：大阪市旭区生江2丁目15-14
沿　　線：地下鉄谷町線　千林大宮駅　徒歩15分
募集対象：中学生以上、どなたでも
費　　用：交通費支給。食事は活動時間によって支給
問合せ先：TEL 06-6929-0300　FAX 06-6929-0590
医療法人清翠会　牧老人保健施設
（担当／岐部　俊樹）

9 あなたも始めませんか 国際交流ボランティア

活動内容：ホームビジット、ホームステイ、交流企画、通訳・翻訳、日本語交流など
日　　時：随時
場　　所：(財) 箕面市国際交流協会など
(箕面市粟生間谷西1-2-1箕面市役所　豊川支所2階)
沿　　線：阪急千里線　北千里駅・北大阪急行線　千里中央駅よりバス　豊川支所前尼谷下車、阪急宝塚線　石橋駅よりバス　小野原下車
募集対象：16歳以上の方ならどなたでも
問合せ先：TEL 0727-27-6912　FAX 0727-27-6920
E-mail：mafgajigyo@wonbat.or.jp
財団法人　箕面市国際交流協会

10 地域の子どもたちの遊び場作り「わくわくステーション」活動

活動内容：交流、話し相手、遊び相手、イベントの企画・運営
日　　時：毎月　第3土曜日
場　　所：東淡路子ども館（大阪市東淀川区東淡路2-7-5）
沿　　線：阪急京都線　淡路駅　徒歩3分
募集対象：専門学校・短期大学・大学生以上、成人（概ね30歳代まで）
費　　用：交通費2,000円以内で支給
問合せ先：TEL 06-6379-1059　FAX 06-6325-6320
E-mail：rokoukan@ca.mbn.or.jp
社会福祉法人　路交館　東淡路子ども館
(担当／福田)
＊地域の子どもたちに遊びを伝え、いっしょに遊びましょう。

6 子どもたちの抱える心の問題に誠実につきあっていきませんか

活動内容：吹田市内の2ヶ所の公民館で、それぞれ月1回、子どもたちと遊びながら信頼関係を作り、よき話し相手、相談相手になっていこうとする「吹田BBS会」の活動です。まずは子どもたちと気軽に遊んでくれるお兄さん、お姉さんを募集します。
日　　時：水曜日　17:00～21:00
場　　所：吹二地区公民館（吹田市泉町2-11-45）または佐井寺地区公民館（吹田市佐井寺南が丘1-1）
沿　　線：阪急千里線　吹田駅　徒歩3分、千里山駅　徒歩20分
募集対象：専門学校・短期大学・大学生、成人（概ね20歳代）の方
費　　用：年会費2,000円
問合せ先：TEL 06-6384-1231（内線　2513）
吹田市福祉保健部福祉総務課　地域福祉係
(担当／真柄）http：//suitabbs.org/

7 精神障害者作業所でのボランティア活動及びバザーでのサポート活動

活動内容：交流、ふれあい活動、野外活動の企画・運営、芸能指導、運転
日　　時：月曜日～日曜日　9:00～17:00
場　　所：大阪市
沿　　線：地下鉄四ツ橋線　北加賀屋駅　徒歩5分
募集対象：成人（概ね10～20歳代ぐらいまで）
費　　用：交通費はその時により支給
問合せ先：TEL・FAX　06-6686-2922
精神障害者作業所フレンドリーバル
(担当／山下)
＊5名募集。定員になり次第締切
＊簡単なパソコン指導をお願いできる方も急募しております

8 知的障害児の旅行の付き添いボランティア募集

活動内容：7人の知的障害児との3泊4日の旅行に付添っていただきます。障害児の話相手、お世話等、指導員の管理のもと、ボランティアしていただきます。
日　　時：2001年7月10日(火)～13日(金)（施設に10:00頃集合）
場　　所：神戸しあわせの村（神戸市北区山田町下谷上字中一里山）
沿　　線：阪急宝塚線　服部駅　徒歩10分
募集対象：専門学校・短期大学・大学生、成人(概ね10～20歳代)、初心者歓迎、知的障害児に関心のある方ならどなたでも
費　　用：全額作業所負担
問合せ先：TEL・FAX　06-6862-6178
簡易通所授産施設　レインボー（担当／林　美津子）
申込締切日：7月1日

編集後記

蒸し暑～い日々に、早くもバテ気味の人も多いのではないでしょうか。私もそろそろ、その一人に加わりそうです。自己紹介が遅れましたが、今年度から本誌を担当することになりました大阪府ボランティア・市民活動センター（名称が新しく変わりました！）の西原弘将、26歳です。名称変更を機に、これまで以上に幅広いさまざまな市民活動をサポートしていく予定ですので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

さて、暑い時期にいい清涼剤をと思い、今号より、各地でさわやかな風を吹かせている市町村ボランティアセンターを紹介する記事をスタートさせました。第一回めは堺市と高槻市のボランティアセンター。二つとも市民の応援を得て活発な活動を展開しているセンターですが、取材してあらためて感じたのが、市民パワーの大きさ。「21世紀は市民の時代」を肌で実感しました。

ボランティアおおさか 第25号
2001年 SUMMER
発行／（福）大阪府社会福祉協議会 大阪府ボランティア・市民活動センター 〒542-0065 大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
TEL 06（6762）9631
FAX 06（6762）9679

ボランティア保険が新しくなりました。

ボランティア・市民活動保険のごあんない

※子ども保険・ボランティア保険Aプランが廃止され以下のように改定されました。

	ボランティア保険				新 ボランティア・市民活動行事保険			
補償内容	ボランティアがボランティア活動中に、①偶然な事故によってケガをした場合の「傷害保険」、②第三者の身体や財物に損害を与えた場合の「賠償責任保険」、③ボランティア活動中に死亡し、「傷害保険」の給付対象にならない場合の「死亡見舞金」の3つの制度がセットされています。				ボランティア団体や各種の市民団体が主催する行事の参加中に、①参加者が偶然な事故によってケガをした場合の「傷害保険」と②主催者または参加者が第三者の身体や財物に損害を与えた場合の「賠償責任保険」の2つの制度がセットされています。			
補償金額 損害部分 ボランティア本人のケガ	Bプラン		Cプラン（天災担保）		参加者本人のケガ	Ⅰ型（宿泊なし）		Ⅱ型（宿泊あり）
	死亡	2302.1万円	死亡	843.3万円		死亡		500万円
	後遺障害	69～2302.1万円	後遺障害	25～843.3万円		後遺障害		15～500万円
	入院（1日あたり）	8,700円	入院（1日あたり）	5,900円		入院（1日あたり）		3,000円
	通院（1日あたり）	5,600円	通院（1日あたり）	3,800円		通院（1日あたり）		2,000円
	手術保険金／入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額					手術保険金／入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額		
補償金額 賠償部分 対人・対物	対人、対物共通 最高 4億円		対人、対物共通 最高 3.5億円		対人	1名あたり 最高1億円 1事故あたり 最高2億円		
					対物	1事故あたり 最高500万円		
補償金額 見舞金 本人の死亡	死亡 30万円		死亡 30万円					
掛金	ボランティア1名 年間（中途加入でも同じ）				Ⅰ型		Ⅱ型	
	500円		2,000円		A区分	30円	1泊2日	283円
					B区分	128円	2泊3日	291円
					C区分	251円	3泊4日	299円
							4泊5日	370円
加入できる人や対象となる活動	・無償であること（交通費、食事代など除く） ・自助活動ではないこと ・活動のための会議や、往復途上も含む				ボランティア団体や市民団体が主催する行事（スポーツ活動や自助活動も含む）			
保険有効期間	毎年4月1日から翌年3月31日まで（中途加入の場合は受付日の翌日から）				行事期間中（開催1週間前までに受付が必要）			

	新 非営利・有償活動団体保険				新 移送中事故障害保険			
補償内容	ボランティア保険の対象外で、有償活動を行う団体が活動中に、①スタッフが偶然な事故によってケガをした場合の「傷害保険」と②利用者などの身体や財物に損害を与えた場合の「賠償責任保険」がセットされています。				移送サービス事業の活動中に、車輌に搭乗中の加入者や利用者がケガをした場合、実施主体の責任の有無に関係なく補償します。			
補償金額 損害部分 参加者本人のケガ	Aプラン		Bプラン		Ⅰ型（車輌特定）		Ⅱ型（車輌不特定）	
	死亡	202万円	死亡	500万円	死亡	2,260万円	死亡	1,923万円
	後遺障害	6～202万円	後遺障害	15～500万円	後遺障害	79.8～2,660万円	後遺障害	57.7～1,923万円
	入院（1日あたり）	3,000円			入院（1日あたり）	3,000円		
	通院（1日あたり）	2,000円			通院（1日あたり）	2,000円		
	手術保険金／入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額				手術保険金／入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額			
補償金額 賠償部分 対人	1名あたり 1億円 1事故あたり 2億円							
補償金額 賠償部分 対物	500万円							
補償金額 見舞金 本人の死亡								
掛金	Aプラン		Bプラン		Ⅰ型		Ⅱ型	
	4,900円		6,300円		2,000円（車定員1名あたり）		2,000円（記名利用者1名あたり）	
加入できる人や対象となる活動	営利目的ではないが利用者から実費を越える報酬を得ている活動、団体				移送サービスを実施するサービス実施主体の運転者、同乗のスタッフがその利用者			
保険有効期間	毎年4月1日から翌年3月31日まで（中途加入者は翌々月1日～）				同 左			

市町村の社会福祉協議会へ保険料とともにお申し込みください

安心 代理店
住友海上

各種損害保険・生命保険取扱 島本保険事務所
〒541-0054 大阪市中央区南本町3丁目5番14号 有楽ビル3階
TEL：06-6252-4519 FAX：06-6245-4686